アジア社会福祉従事者研修
修了生福祉活動助成事業

2023年度 実施報告

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

はじめに

全国社会福祉協議会・国際社会福祉基金委員会は、1997（平成 9）年から毎年、アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動を支援する「修了生福祉活動助成事業」を実施しています。修了生の活動を通じて各国の福祉の向上に寄与することを志し、2023（令和 5）年度までに 8 か国のべ 212 団体に約 6,286 万円を助成しました。

各国で取り組まれてきた福祉活動は、低所得の家庭に対する雇用創出のための取り組みやストリートチルドレンの生活・教育の支援、高齢者の心身の健康の維持・増進、障害者の就労支援、虐待を受けた女性や子どもへの支援など多岐にわたります。

また、2023 年度は、2022 年度に続き、新型コロナウイルス感染症の長期的な流行による心理的・社会的影響に立ち向かう事業が多く見られました。いまだに残るコロナ禍の影響により教育機会が失われた子どもたちへの教育機会の保障など、さまざまな活動が実施されました。加えて、世界各地で発生している大規模な災害に対応した事業も実施されました。災害発生時に生命と安全を守り、また心理的・社会的に安心した生活を取り戻すができるよう専門的なサポートが実施されました。2023 年度に助成を行った 4 か国・7 件の事業について、修了生たちからのレポートをもとにご報告いたします。

本事業を実施するにあたり、長年ご支援いただいております、公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、また、インドネシア・ジャワ島西部地震（2022 年 11 月）の復興支援の活動にご寄附をいただきました公益財団法人全国老人クラブ連合会、そして国際交流・支援活動会員の皆様に厚く御礼を申しあげます。

社会福祉法人　全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

contents
― 目 次 ―

はじめに 1

事業実施報告 3

The Philippines　フィリピン

Wilmar C. Dela Rosa（ウィルマー） 4
『路上で生活する子ども（ストリート・チルドレン）の支援プロジェクト』

Thailand　タイ

Tungtriratanagul Chintana（チンタナ） 8
『ヘルシーなランチを提供し、中学生の健康維持と地域活動への参加をめざす』

Malee Prakornkaew（マーリー） 12
『高齢者の転倒防止サポートプロジェクト』

Ratjai Adjayutpokin（ラットジャイ） 16
『知的障害がある生徒と学校関係者のための
障害者インクルーシブ災害リスク削減（DiDRR）に関するトレーニング』

Sri Lanka　スリランカ

Nilani Chandrika Weragoda（ニラーニ） 20
『スマイル～バック・トゥ・ライフ
～学習障害に苦しむ子どもたちの識字能力の向上（第２期）～』

Indonesia　インドネシア

Suarni（スアルニ） 24
『心理的・社会的支援プログラムの実施と支援スタッフの専門性向上
～ハリケーン被害、新型コロナウイルスによる困難を乗り越えて～』

Wawan Setiawan Mu'arif（ワワン） 28
『被災者たちよ、共に、立て直しを～チアンジュール地震の被災者たちの支援～』

資料 32

※氏名は敬称略、（　）内は呼称

事業実施報告

路上で生活する子ども（ストリート・チルドレン）の支援プロジェクト

The Philippines / フィリピン

氏 名　Wilmar C. Dela Rosa　ウィルマー（23 期）
所属団体　カンルンガン・サ・エルマ・ミニストリー

フィリピンでは、経済的な貧困等を理由に路上で生活するストリート・チルドレンが多く、社会問題のひとつだと考えています。子どもたちへの教育サポート、心のケア等を行い、社会で生きていくための成長をフォローするプロジェクトを実施しました。

所属組織の概要

フィリピンの社会問題のひとつといえるストリート・チルドレン（路上で生活する子どもたち）への支援、教育に取り組んでいます。経済的な貧困のために学校に行けず、教育を受ける機会がないために、大人になってからも安定した仕事に就くことができない子どもが多くいます。教育機会を保障するとともに、社会で生きていくために必要な知識、経験を子どもたちに提供しています。

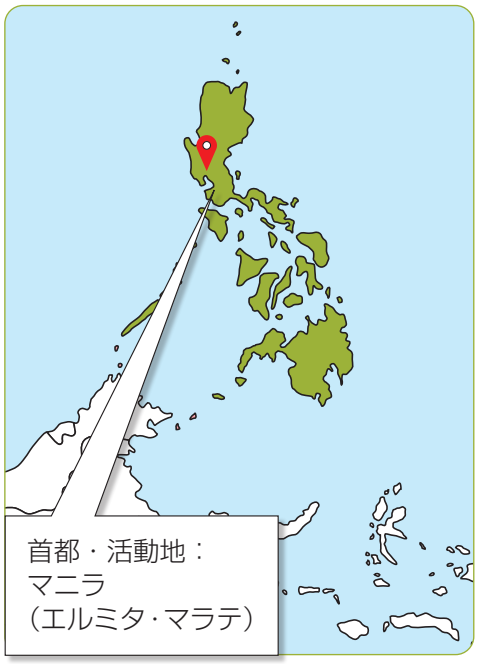
事業の目的

本プロジェクトの目的は、児童保護、児童虐待防止、搾取予防、そして特別な保護を必要とする青少年およびその家族に支援を行い、生活の質を向上させることです。そのために、支援対象であるストリート・チルドレンに対し、次のような目標をもって支援しました。

- 社会参加の機会をつくり、心の成長を支援する
- 虐待や搾取を防止するため、地域ぐるみで子どもと家族に関わる仕組みをつくる
- 傷ついた子どもに対し、心のケアを継続的に行い大人への信頼を取り戻す
- ていねいなフォローを行い、普通教育で学び、理解できる子どもを増やす

活動地域

フィリピンの首都マニラにある、エルミタ（Ermita）およびマラテ（Malate）地域で実施しました。フィリピンには、国全体で 36 万人を超えるストリート・チルドレンがいるといわれています（研究団体：Social Weather Stations 調べ）。首都マニラにも多くのストリート・チルドレンがいますが、生活の拠点を頻繁に移動し支援が届いていない子どもが多数で、正確な人数を把握するのは難しい状況にあります。



対象者

路上で生活をしているストリート・チルドレンを支援の対象としています。また、児童虐待（身体的／心理的／性的）の被害にあった子ども、生活のために働いており学校に通っていない子ども、人身売買や性的搾取の被害にあった子ども、薬物中毒の子ども、非行少年等への支援も行っています。

事業の成果

この事業によって、子どもたち、その保護者、地域社会について、それぞれ次のような成果があったと考えています。

- 「子どもと大人がともに遊ぶ日」をつくったことで、リラックスしたなかで交流ができ、子どもたちの幸福感や大人への信頼感を高めることができた。また、ゲームを通じて、チームワークや社交スキルを高めることができた。
- 子どもと社会科見学に出かけ、さまざまなことを経験したり、感想を言い合うことで楽しく学びあうことができた。
- ていねいな教育とそのフォローにより、普通教育の学校を卒業できる子どもが増えた。
- 子どもの保護者に対し、子育てスキルに関する講義、カウンセリングを実施し、子どもが安心して生活できる基盤を強化することができた。
- 子どもの医療面でのサポート等を通じ、地域の医療機関と協力関係を構築した。ストリート・チルドレンやその保護者を見守る地域の輪をつくることにつながった。

実施内容

本事業は、2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日の期間に「路上教育プログラム」と「オープン・デイ・センター」での活動を通じて実施しました。

路上教育プログラムの実施

路上教育プログラムは、毎週火曜～金曜の４日間、ストリート・チルドレンが多い場所に出向いて実施しました。曜日ごとに実施する場所を決めており、毎週決まった曜日に実施することで、継続的な支援、教育を行っています。

このプログラムは、現場でのカウンセリング、それぞれの子どもに必要な学習サポートの検討とマッチング、学校に通うことのサポート、医療ケアおよび治療の提供などさまざまな支援を組み合わせています。さらに、対象児童の保護者に対してもカウンセリングを行い、子育てスキルに関する講座等への参加を促しています。地域の医療機関、学校等との連携にも力を入れています。

子ども一人ひとりと話をして、ていねいに支援プログラムを考えます

オープン・デイ・センターの運営

オープン・デイ・センターは、毎週月曜～土曜の週６日間、８時～ 17 時まで開放し、「路上教育プログラム」でニーズを把握した子どもたちを受け入れています。センターでは、主にカウンセリング等による心のケア、家庭生活に必要な生活スキルを獲得するための訓練等を行っています。また、路上で生活している子どもたちの衛生管理も重要な役割で、センターに来た子どもたちは、まずはお風呂に入って身体をきれいに洗ったり、おやつを食べて空腹をなくしたりしてから、支援プログラムに参加します。食事や昼寝など、心身の成長に必要な栄養や休息も路上生活のなかでは十分に補えませんから、センターにいる間にその基盤をつくります。

心身のケアを行った後に、個々の学習能力に応じて必要な学習のフォローを行います。社会科見学等の学習には保護者も参加しており、家族全体を支援できるようなプログラムを考えています。

支援対象の子どもとその家族とともに、毎月ミーティングを行っています

今後の展望

子どもとその保護者への支援は、継続していくことが非常に重要だと考えています。特に、子どもの権利と大人の責任、虐待の防止などについては、繰り返し伝えて浸透させていくことが必要です。また、関係機関との連携を密にし、地域のなかで子育て家庭を見守り、子どもを育てていく仕組みをつくっていきたいです。

収支報告

〈収 入〉

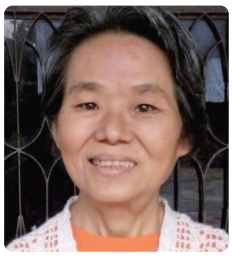
項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	332,815	
その他	1,445,019	
合　計	1,777,834	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
教育教材等購入費	437,608	
食費	721,755	
水道光熱費	349,351	
医薬品購入費	45,795	
交通費	223,325	
合　計	1,777,834	

注）フィリピンペソ（PHP）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 フィリピンペソ≒ 2.60 円（送金時（2023 年 5 月 19 日）の為替レート）

ヘルシーなランチを提供し、中学生の健康維持と地域活動への参加をめざす



Thailand ／タイ

氏 名　Tungtriratanagul Chintana　チンタナ（3期）
所属団体　ネオ・ヒューマニスト財団

タイとミャンマーの国境近くでは、ミャンマーからの移民が多く生活しており、無国籍であるために公的な支援を受けられない人も多くいます。こうした子どもたちに栄養バランスの良い食事を提供するとともに、料理教室を開催し、地域生活の質の向上を図りました。

所属組織の概要

移民の家族など、生活困窮にある子どもたちの健康維持と、社会的な活動への参加を支援する取組を行っています。子どもたちへの健康的な昼食の提供、料理教室の開催、栄養や食事に関する相談支援等を通じ、生活スキルを向上させるための支援を行っています。

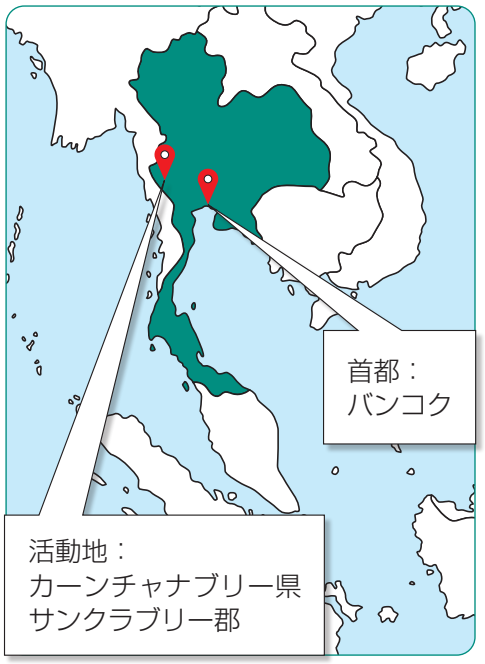
事業の目的

中学生 235 名に健康的な昼食を提供するとともに、料理教室の開催を通じて以下のことをめざしました。

- 免疫力をつけるため、快適な環境下で栄養価の高い食事をとるとともに、衛生的に料理を行う習慣を通じて健康的なプログラムを強化する。
- 料理を通して中学生たちの生活スキルを向上させ、自尊心を育む。
- 中学生たちが自分の家族を助け、将来的に社会を支える存在になる。

活動地域

カーンチャナブリー県サンクラブリー郡で実施しました。サンクラブリーは、首都バンコクの北西に位置する人口5万人の小さな町です。ミャンマーとの国境に近く、さまざまな宗教／民族／言語が混在する多文化都市で、人口の大部分は、ミャンマーの内戦による貧困と残虐行為を逃れた移民です。家族は崩壊し、無国籍の子どもも多く、タイの公的な保護や支援を受けられないケースも多く見られます。



対象者

サンクラブリー郡にある中学校の生徒 235 名を対象に実施しました。

事業の成果

この事業により、生徒たちは、健康的な昼食を毎日食べることができました。栄養バランスの良い昼食は、健康を維持し、免疫力を高めることにつながります。また、自分で生活していく力を身につけることができるよう、料理教室を開催し、生徒たちが協力して食事をつくることができるよう支援しました。料理教室では、衛生的な環境で料理を行うことの大切さも伝えました。生徒たちが食べる昼食は、料理教室で自分たちがつくったものです。自分が作った食事を教師や友人たちに提供することで、他者に貢献できる存在であることを自覚させ、自尊心を高めることにつながりました。

実施内容

バランスの良い栄養がとれる食事と衛生的な調理環境を提供し、生徒たちにテーブル・マナーを学ぶ機会を提供するべく、毎日の昼食を用意しました。料理教室を開催し、中学生が昼食づくりにも参加しました。

2023 年 5 月～ 2024 年 3 月まで

ヘルシーなランチの提供

継続的に実施している活動のなかで、本助成金は 2023 年 5 月～ 11 月までの間の活動費、食費に充てました。今年の生徒数の増加、水道使用料や食料購入費の高騰のため、活動に係る費用総額は例年に比べて増額しています。しかし、私たちは生徒への関わりは非常に重要だと考えており、助成金を使い終えた後も、学費を一部活動費に充てながら、2024 年 3 月まで活動を継続しました。

栄養や料理に関する授業の実施

生徒たちには、実際にキッチンで行う料理教室だけではなく、栄養や料理に関する授業も行っています。授業では、献立の立て方、衛生的な料理の環境づくりの大切さ、栄養管理の大切さとその方法、健康について取り上げています。また、私たちが料理をするときの想いや、心を込めて料理することの大切さなども伝えています。

タイ

今後の展望

生徒たちが自分で栄養管理ができ、さらに家族や社会を支える存在になってほしいと考えています。まずは、自分たちでキッチンを衛生的に保ち、料理を続け、昼食をお互いにつくりあう活動を続けていきます。健康を維持するために必要な栄養バランスの良い食事、衛生的な環境について、子どもたちから家族に伝えることができたら、この活動の効果はさらに拡がっていきます。また、正月や母の日、家族の日などの特別な行事の際に、地域の高齢者に食事の提供を行うことができたら、社会とのより強いつながりができると考えています。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	320,547	
その他（寄付金）	419,000	
学費	501,112	235 名分
合　計	1,240,659	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
食材費	1,161,468	
光熱費	79,191	
合　計	1,240,659	

注）タイバーツ（THB）で提出された報告書をもとに日本円に換算して表記
　　換算レート：1 タイバーツ≒ 4.11 円〔送金時 (2023 年 5 月 19 日) の為替レート〕

高齢者の転倒防止サポートプロジェクト

Thailand ／タイ

氏 名　Malee Prakornkaew　マーリー（9 期）

所属団体　バーン・サバイ・ヘルスセンター

高齢者が元気に長生きするために、健康の維持につながる「転倒予防」が重要です。地域に住む高齢者に向けて転倒防止のワークショップを開催し、開催後には参加者とのつながりをもって、YouTube 等のメディアを使い健康情報を発信しています。

所属組織の概要

健康に関する事業を行っており、とくに病気の予防に力を入れています。また、病気から回復した後の再発防止にも取り組んでいます。理学療法や食事指導、その人にあった運動を行うことで、免疫を高めて健康を維持するプログラムを実施しています。

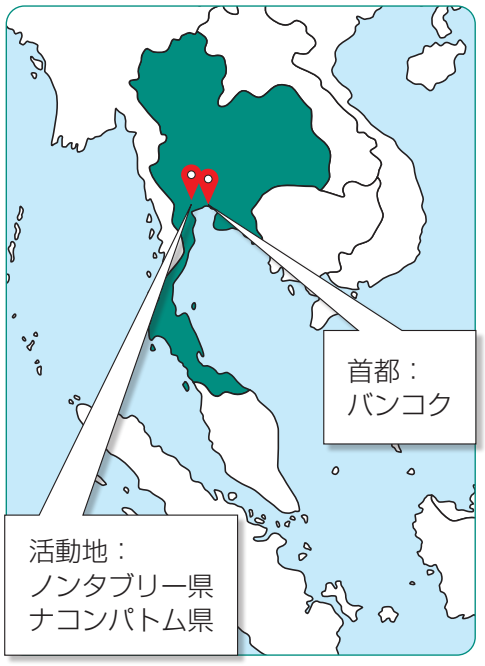
事業の目的

WHO（世界保健機関）のデータによれば、「65 歳以上の高齢者は年 28 ～ 35% の確率で転倒しやすくなり、70 歳以降はそれが 32 ～ 42% に増加する」とされています。高齢者が転倒して骨折すると、歩行障害のために二度と歩けなくなったり、車いす生活になる人もいます。高齢者の「転倒予防」は、健康を維持するうえでたいへん重要で、高齢者が他者に依存せず生活できる時間を引き延ばし、高齢者が幸せに長生きすることに役立ちます。そこで、私たちは高齢者の転倒予防をサポートするプロジェクトを実施することにしました。

吸い玉や指圧などの
代替医療を用いた理学療法

活動地域

タイのノンタブリー県およびナコンパトム県にある２つの仏教寺院で事業を実施しました。寺院は仏教徒、特に高齢者がお参りや修行のために多く集まる拠点です。そこで、２つの寺院は、地域の高齢者の心身をケアするためのセンターとしても機能しています。

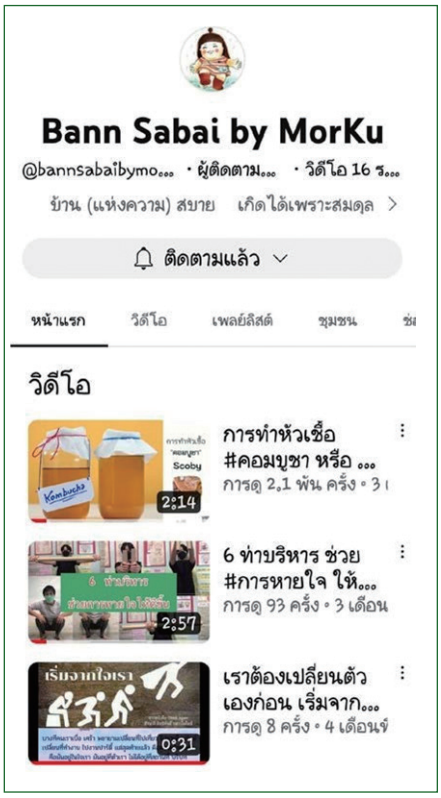


対象者

寺院に集まる高齢者（２つの寺院各 30 名、合計 60 名）

事業の成果

- ワークショップを通じて、転倒防止のために、転倒の要因を理解することができました。
- ワークショップ参加後、参加者が転倒の原因となるリスクを避ける方法を学び、日常生活のなかで実践することができました。
- オンラインメディア（YouTube 等）により健康に関する情報を発信し、それを高齢者に伝えたり、ワークショップに使用したりすることで、多くの人に有益な情報を伝えることができました。



YouTube で情報を発信しています

タイ

実施内容

2023年5月1日

プロジェクト計画会議を開催しました。

2023年6月～9月

転倒予防のワークショップに向けて、健康知識に関する教材やビデオなど、関連資料および教材の準備を進めました。

2023年7月22日、23日

高齢者に向けた転倒予防のワークショップを開催しました。

高齢者38名（60～69歳：22名、70～79歳：10名、80～89歳：6名）が参加。

また、病気や1人での移動が難しい等の理由で参加ができなかった高齢者もいました。こうした人には資料を送り、私たちのつくったLINEグループに招待して情報を届けました。

さらに、ワークショップ後も情報や知識を届け、その後の状況の追跡と健康状態に関する評価をするために、参加者たちを継続して訓練の場に招待しました。ワークショップに参加した人とはLINEを使って連絡をとり続けています。

2023年6月、8月

チームワーク会議を開催しました。

今後の展望

この助成プロジェクトは終了しましたが、私たちは健康維持のために医療に関する自己学習を継続的に支援することの重要性を認識しています。とりわけ、転倒や病気を予防することは重要です。プロジェクトに関わったスタッフが、今後もバンコクおよびその周辺地域で、高齢者のための転倒予防トレーナーとして活動することをめざします。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	304,128	
参加費	11,880	60 名分
賛助金	18,612	
合　計	334,620	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
プロジェクト計画会議開催等準備	55,044	コーディネーター報酬、会議室賃料、交通費、昼食代
ワークショップのための資料、教材の準備	63,360	資料・教材費、YouTube 等のメディア製作費
ワークショップ開催（2 回分）	144,144	会議室賃料、講師手当、資料・教材費、参加者のおやつ代、交通費、昼食代
チームワーク会議（2 回分）	30,888	会議室賃料、ボランティア交通費（3 名分）、ボランティア昼食代 (300 円 ×3 名分)
報告書等作成	41,184	YouTube 等のメディア製作費、報告書翻訳代、ボランティア昼食代、ボランティア交通費
合　計	334,620	

注）タイバーツ（THB）で提出された報告書をもとに日本円に換算して表記
　　換算レート：1 タイバーツ≒ 4.11 円〔送金時 (2023 年 5 月 19 日) の為替レート〕

知的障害がある生徒と学校関係者のための障害者インクルーシブ災害リスク削減（DiDRR）に関するトレーニング

Thailand ／タイ

氏 名　Ratjai Adjayutpokin　ラットジャイ（13 期）
所属団体　ネオ・ヒューマニスト財団

タイ北部のチェンライ県では、さまざまな災害が発生しているにもかかわらず、災害への備えは十分でなく、障害がある人のリスク軽減に向けた対応はさらに遅れています。特別支援学校に通う生徒を対象に、災害時のリスク軽減に関するトレーニングを行いました。

所属組織の概要

教育機関と協力し、少数民族および無国籍の生徒により良い教育機会を提供するために、教育プロジェクトの支援を行っています。2022 年には、学校における災害リスク軽減に関するプロジェクトに取り組み、特別支援学校においても、災害発生時に受傷・死亡等のリスクが高いとされている障害者に対して、災害リスク軽減の取組を試験的に実施しました。

事業の目的

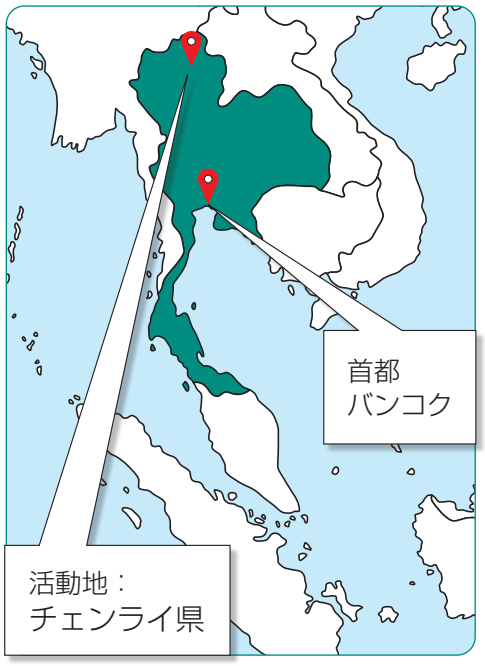
知的障害がある生徒と学校関係者の災害リスク軽減に関する理解とスキルを深め、災害発生時に命と安全を守る行動がとれることを目的に活動しています。また、水害が発生した際に水中で適切な行動がとれるよう、サバイバル・スイミングに関する理解とスキルの向上にも取り組んでいます。

消防訓練では、実際に消火器の使い方を学びました

地震防災訓練で、震災発生時に自分の身を守る行動を学びました

活動地域

タイ北部のチェンライ県にあるチェンライ・パニャヌクル学校で実施しました。チェンライでは、洪水、地滑り、地震、森林火災など、さまざまな災害が発生しています。チェンライの人びとは複数のリスクに直面しているにもかかわらず、災害への備えは進んでいない現状があります。障害がある人への支援や対応はさらに遅れています。



対象者

チェンライ・パニャヌクル学校の生徒、関係者です。知的障害のある生徒が 408 名、学校関係者が 80 名います。

事業の成果

- 災害が発生した時、学校関係者および生徒が死亡・受傷するリスクを軽減する能力が向上しました。あらゆる災害を想定し、いかにシステマティックに動いて命を救うかを学び、訓練の準備をしました。
- 研修に参加した教師たちから生徒たちに向けて、サバイバル・スイミングの訓練を実施しました。100 名の生徒たちが訓練を終え、教師、生徒ともにサバイバル・スキルが高まりました。
- 今回、試験的に実施した本事業は、他の地域の学校でも応用できると分かりました。障害がある生徒が災害時に命と安全を守れるように、そしてその親たちも一緒に動くことができるように、2024 年にはこのプロジェクトを拡大していく計画を立てています。

知的障害児および自閉症児との訓練を実施しました
左：口から水を吹き出す訓練
右：大の字になって上向きで浮く訓練

実施内容

障害者インクルーシブ災害リスク軽減（DiDRR）は、本財団の「『チェンライにおける災害リスクの軽減』プロジェクト」のひとつです。本プロジェクトは、チェンライ県にある普通学校８校と特別支援学校２校で行いました。チェンライ・パニャヌクル学校はこれに参加した学校のひとつで、知的障害がある生徒たちへの教育を提供しています。

全社協からの助成金は、この学校での学校関係者のためのDiDRRおよびサバイバル・スイミングの訓練活動に充てています。詳細は以下の通りです。

2023年7月21日

80名の教師および408名の知的障害がある生徒を対象に、溺死防止、応急処置とCPR心肺蘇生法、地震や火災発生時の、消防訓練に関するDiDRRワークショップを開催しました。これは学校関係者、教師および生徒たちにが、起こり得るあらゆる災害を想定し、対応できることが開催の目的です。自分たちの学校の災害マネジメント計画を見直し、災害時のリスク軽減に関する訓練を練り上げる機会を与えました。

応急処置の訓練で、命を守る行動を学びました

2023年５～７月

知的障害がある生徒のためのサバイバル・スイミング訓練を、生徒100名に対し10回実施しました。

2023年３月には、その訓練に向けて、30名の教師および世話人を対象に、サバイバル・スイミングに関する３日間のトレーナー研修を行いました。内容は、子どもたちの能力評価の方法、楽しい教授法、視覚的な方法を活用した指導方法、指導の流れ等です。

さらに、この研修に参加したチェンライ・パニャヌクル学校の教師たちがフィードバックを行い、ワークショップを実施しました。

３月に実施した教師向けの研修とワークショップを経て、実際に水中で生徒たちと実技を行うことができました。障害がある生徒たちの能力を正しく評価し、水中でも安全を確保する行動がとれると、災害発生時の傷害リスクを減らすことができます。

水への恐怖をなくすため、『Wheel on the bus（バスの車輪）』の歌を歌いながら楽しくリラックス

タイ

今後の展望

災害が発生した時、障害がある子どもたちのことはしばしば見落とされがちで、重要な事柄ではあるのに、現在、教師や親、子ども自身がそれを学ぶ機会がありません。その理由としては以下のことが考えられます。

- 障害がある子どもを支援するための社会資源が十分でない。
- 教師と両親に、障害がある子どもにサバイバル・スイミングを教える知識がない。
- 教師と両親が、障害がある子どもたちの能力を過小評価している。そのため、この重要なスキルを教えようとしない。結果として、こうした子どもたちは学ぶ機会を失い、自分自身の命を救う機会を失っている。

私たちは、災害時、障害がある子どもたちがひとりも取り残されないようにという想いで、将来に向けてこのプロジェクトを継続していきたいです。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	329,058	
自己資金	1,118	
合　計	330,176	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳	
災害時のリスク軽減のための訓練実施	131,524	トレーナー弁当代 生徒のおやつ代 機材・車両ガソリン代	37,710 円 63,227 円 30,587 円
知的障害がある生徒のためのサバイバル・スイミング訓練実施	188,780	交通費（生徒 100 人分） プール利用代 トレーナー手当 生徒のおやつ代	41,900 円 20,112 円 93,248 円 33,520 円
運営費	9,872		
合　計	330,176		

注）タイバーツ（THB）で提出された報告書をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 タイバーツ≒ 4.11 円〔送金時 (2023 年 5 月 19 日) の為替レート〕

タイ

スマイル～バック・トゥ・ライフ
～学習障害に苦しむ子どもたちの識字能力の向上（第２期）～

Sri　Lanka ／スリランカ

氏 名　Nilani Chandrika Weragoda　ニラーニ（５期）

所属団体　シッタルタ児童発達財団

新型コロナウイルスの影響と政治による情勢不安により学習機会を失われ、いまも学習の遅れに苦しむ子どもがいます。子どもたちに学ぶことの楽しさを伝え、学習を続けていけるよう支援を行いました。

所属組織の概要

家庭内暴力や人身売買の被害者たちをトラウマから立ち直らせるための心理社会的サービスの提供、弱い立場の子どもと高齢者への支援を実施しています。また、個別のニーズに基づいたサービス提供だけではなく、新たな社会福祉の問題などにも対応できるよう、本会スタッフや仲間の支援者たちの専門性を高める研修プログラムを実施しています。

事業の目的

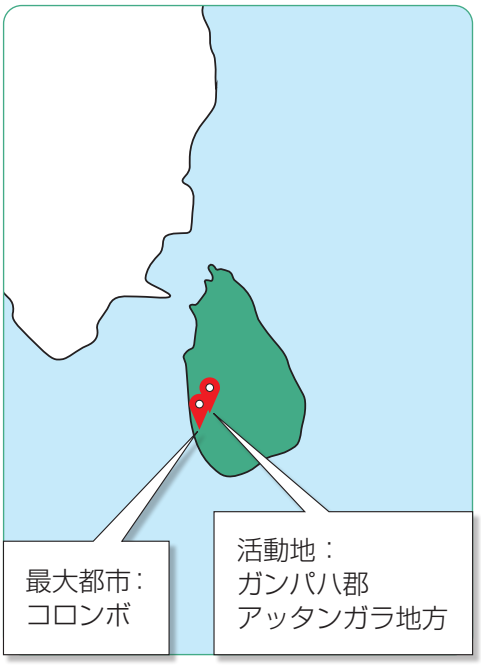
スリランカでは、新型コロナウイルスの影響と政治による情勢不安により、多くの子どもの学習機会が失われてしまいました。特に、新型コロナウイルスのパンデミックにより学校が閉鎖されていた約２年間、教育当局はオンライン授業を実施していましたが、貧しい家庭では子どもを参加させることができませんでした。そこで、2022 年度から、学校が閉鎖されていた２年分の学習を取り戻すために本事業をスタートし、今回が第２期となります。

現在も学習の遅れに苦しむ子どもたちの識字能力を向上させ、ドロップアウトすることなく学習を続けることができること、特別な支援を必要とする子どもたちの学びを守ること、児童支援サークルをつくり継続させることを目的に実施しました。

たのしく学習する工夫をしています

活動地域

本プロジェクトは、スリランカ西部州ガンパハ郡アッタンガラ地方のダンヴィラナ、ヴィヤレゴダ、メダワッタの３つの村に住む、生活基盤の弱い家庭の子どもたちに対して実施しました。



対象者

対象地域の３つの村の子どもたちは、毎週日曜日にダンヴィラナにあるジナラジャ寺院の宗教学校（仏教学校）に通っています。本財団では、設立当初からこの寺院でさまざまな地域開発と子どもたちへの支援プログラムを実施してきました。

本事業では、この日曜学校を通じて、生活に困窮している家庭の子どもたちのためにプログラムを実施しました。今期は、子ども 74 名（5～ 14 歳）、親 41 名、コミュニティ・リーダー 23 名、日曜学校教師 12 名、小学校教師３名、政府の担当者３名が参加しました。

事業の成果

まず、子どもたちにさまざまな変化、成果がありました。読み書きができない子どもが教科書を読むことができるようになったり、喜んで本を読むようになったりしました。語学学習に積極的に取り組むことで、さまざまな活動に参加できるようにもなりました。プログラムのなかでは、友人とともにさまざまな遊びやゲームを通じて、感情をコントロールする方法についても学んでいます。学校や家庭で起こる問題を受け止め、自分の感情を表現できるようになりました。子どもたちから大人への信頼が高まったように思います。

次に、プログラムを通じ、子どもへの支援体制が強化されました。今回のプログラムに関するモニタリングは、教師によって継続しています。子どもの心のケアを行うためのカウンセリングチームができ、子どもがいつでも相談できる体制ができました。コミュニティ・リーダーたちが、定期的に集まり、進捗状況や課題を共有するようになりました。さらに、解決が難しい課題のある子どもに対しては、家庭訪問を実施する等、状況に応じたていねいなケアを実施しています。

実施内容

子どもたちに対して、「学ぶのは楽しいことである」ということを理解してもらえるようにプログラムを進めました。そこで、まずは教える側の大人に対するフォローに力を入れ、子どもに対する頑固な態度を改め、子どもが楽しく意欲的に学習できるよう基盤をつくりました。また、子どもに対しても、語学学習だけではなく、生きていくうえで必要な知識が得られるようなプログラムをつくりました。

2023年6月

教材の見直し、フォローアップに向けた準備

教師向けの教材について、前期に使った内容を見直しました。子どもへの接し方等についてフォローアップができるよう準備しました。

2023年6月～12月

キャッチアップ・クラスの実施、運営

キャッチアップ・クラスは、寺院の宗教学校で実施している「日曜学校」に通う生徒を対象に、学習に遅れがある生徒への補講として毎週火曜日、木曜日、日曜日に実施しました。まずは、開始時点の子どもの読み書きの能力を保護者と子ども自身に認識させることからスタートします。子どもの状況に応じて学力向上計画を作成し、計画に沿って学習を支援しました。キャッチアップ・クラスでは、日曜学校のなかで学力があり、読み書きが上手にできる仲間の子どもたちもメンターとして働きます。キャッチアップ・クラスの教師は2週間ごとに集まり、進捗と課題を共有し、その後の学習計画を見直しました。

2023年6月、8月、10月、12月

児童支援サークルの立ち上げと運用

児童支援サークルは、子どもたちへの支援を検討し実施していく重要な機能を持っています。このサークルは、3つの村にそれぞれ設置し、教師、起業家、子どもたちの発育に関心のある人びと、日ごろから子どもへの支援に関わっている人びとから選ばれた10～15名のメンバーで構成されています。3か月ごとにメンバーが集まり、関連する活動についての会議と研修を行いました。

2023年8月

カウンセリングセンターの設立

子どもだけではなく、子どもに関わる大人に対するカウンセリング、アドバイスを行いました。

2023年10月

薬物防止認識プログラムを開始

青少年150名を対象に3か所で3回実施しました。

2023年11月～12月

子どもたちの識字レベルの評価、個別の成長プラン作成とプランの実行

2023年12月

プロジェクトの評価と、教師およびコミュニティ・リーダーたちとの2024年のプランニング

今後の展望

今回立ち上げたカウンセリングセンターを活用し、子どもの成長に関わる大人への支援を強化していきたいと思っています。子どもに優しく、子どもが伸び伸びと成長できる環境を築けるよう、保護者と協力していきたいです。また、本事業は継続が重要であると考えています。私たちの活動を支える基盤として基金を設立し、安定して事業を続けていきたいです。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	480,000	
自己資金	273,456	
寄付金（寺院の寄付）	48,000	
寄付金（コミュニティの寄付）	23,040	
合　計	824,496	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳	
児童支援サークルの運営	308,880	スタッフ手当 文具購入費 プロジェクター等賃料 参加者昼食代 展覧会・表彰式開催	46,080 円 46,080 円 19,200 円 107,520 円 90,000 円
キャッチアップ・クラス運営	134,400	交通費 教材・文具費	115,200 円 19,200 円
室内レクリエーション実施	177,600	会場費 機材費	57,600 円 120,000 円
カウンセリングセンター運営	133,536	会場費 文具費 交通費	47,136 円 9,600 円 76,800 円
薬物防止認識プログラム実施	28,800	スタッフ手当 教材費 機材費	7,200 円 14,400 円 7,200 円
識字率レベル評価の実施	41,280	スタッフ手当 参加者昼食代 文具費 機材費 その他	11,520 円 14,400 円 7,200 円 4,800 円 3,360 円
合　計	824,496		

注）送金額（日本円）と受領額（LKR）から算出〔送金時点 2023 年 5 月 1 9 日〕
　　換算レート：1 スリランカルピー（LKR）≒ 0.45 円

心理的・社会的支援プログラムの実施と支援スタッフの専門性向上

～ハリケーン被害、新型コロナウイルスによる困難を乗り越えて～

Indonesia ／インドネシア

氏名　Suarni　スアルニ（24 期）

所属団体　さくらインドネシア財団

活動地域のボゴールは首都に隣接する観光地で、人の行き来が多いことからさまざまな課題を抱える地域です。ハリケーンの被害や新型コロナウイルスによる影響から、本財団の活動も大変難しい状況にありましたが、スタッフの専門性を高める研修を行い、暴力や人身売買の被害者に支援を行いました。

所属組織の概要

家庭内暴力や人身売買の被害者たちをトラウマから立ち直らせるための心理社会的サービスの提供、弱い立場の子どもと高齢者への支援を実施しています。また、個別のニーズに基づいたサービス提供だけではなく、新たな社会福祉の問題などにも対応できるよう、本会スタッフや仲間の支援者たちの専門性を高める研修プログラムを実施しています。

事業の目的

以下の目的のために実施しました。

- カウンセリング、レクリエーション、セーフハウスの運営等を通して、クライアント（人身売買や家庭内暴力の被害者、高齢者、子どもたち）のために心理的・社会的支援プログラムを提供すること。
- この事業に関わるスタッフの専門性を高め、より高度な支援を実施すること。

活動地域

本プログラムはインドネシアの首都・ジャカルタに直接隣接するボゴール県で実施しました。ボゴールはジャカルタで働く労働者が多く居住する地域であり、また「雨の町」として知られる観光地でもあります。そのなかで、ジャカルタで働いている共働き家庭の保育ニーズが多いこと、家庭内暴力や高齢者へのネグレクトに苦しむ人が増えたことなど、支援が必要な課題がありました。また、人の行き来の多い地域のため、人身売買のさまざまな犯行の手口の出現、差別、テロリスト、売春、貧困、社会的不平等など、新たな課題も多く出てきている地域です。

対象者

人身売買や家庭内暴力の被害者、弱い立場に置かれている子ども、高齢者を対象にしています。また、専門性の高い支援を行うための能力開発プログラム（研修）について、支援に携わるスタッフを対象に実施しました。

事業の成果

- この事業に関わるスタッフ 20 名に対して実施した「能力開発プログラム（研修）」によって、より専門性の高い支援を提供することができました。
- 人身売買の被害者 20 名が心理的・社会的支援を受けたことにより、トラウマから回復することができました。
- 暴力の被害者 20 名が心理的・社会的支援を受けたことにより、トラウマから回復することができました。
- 子どもたち 100 名、高齢者 50 名が心理的・社会的支援を通して、保護された環境で生活することができました。

実施内容

本事業は、2023年4月から2024年3月まで、以下の内容を実施しました。

地震被害への対応

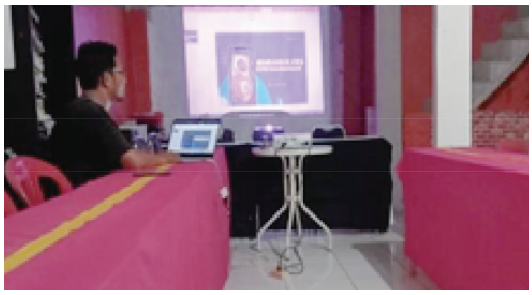
大地震が起こり、キャンプ地に避難する人が発生すると、ジェンダーにもとづく暴力や人身売買の被害が増えます。そこで、支援スタッフがキャンプ地に入り、必要な物資を直接配布することを通して支援活動を行い、その予防に取り組みました。

家庭内暴力などの被害者を保護し、専門的な支援を実施

家庭内暴力などの被害者は、本財団のシェルターに保護し、安全な環境をつくってから心理的・社会的支援を行いました。

専門性を高める支援スタッフへの研修実施

人身売買や家庭内暴力の被害者に対する支援には、高度な専門性が必要です。本財団では、能力開発プログラムとして５種類の研修を実施しました。



今後の展望

私たちはこの事業を継続して実施していきたいです。今回の事業で取り組んだ人身売買や家庭内暴力の問題や立場の弱い高齢者、子どもへの支援は、私たちが力を入れていきたい内容であり、社会福祉を担う組織としての使命だと考えています。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	334,884	
自己資金	21	
合　計	334,905	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
研修時昼食代	19,200	3,840 円 × 5 回（20 名分）
研修用機材、文具　購入費	4,800	研修 5 回分
人身売買被害者のための心理社会的支援資料	71,635	20 名分
暴力の被害者のための心理社会的支援資料	71,635	20 名分
子どもたちのための心理社会的支援資料	71,635	100 名分
高齢者のための心理社会的支援資料	96,000	50 名分
合　計	334,905	

注）インドネシアルピア（IDR）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 インドネシアルピア≒ 0.01164 円〔送金時 (2023 年 5 月 19 日) の為替レート〕

被災者たちよ、共に、立て直しを
～チアンジュール地震の被災者たちの支援～

Indonesia ／インドネシア

氏 名　Wawan Setiawan Mu'arif　ワワン（19 期）

所属団体　ソシエタ・インドネシア

大規模災害の発生後、急性期を過ぎた頃には、被災者の精神的な支援、また社会的なつながりを再構築する支援が必要です。精神的な不調を訴える被災者に対し、心理的・社会的な支援を実施しました。

所属組織の概要

私たちは、2022 年 11 月に発生したチアンジュールの地震の犠牲者や被災者たちを支援するため、コミュニティの復興支援、経済活動支援を行うとともに、子どもたちや女性たちのための心理的・社会的な支援活動を行っています。

事業の目的

大規模な災害発生後、急性期を過ぎて復旧・復興の段階へと移行する時点での被災者への総合的な支援を行い、支援プログラムとしてまとめることを目的としています。今回、被災者に対して、心理的・社会的にふさわしい環境を整え、日常生活を取り戻す支援を行いました。支援活動を通じ、さまざまな関係者との協力体制を構築するとともに、将来に向けて災害時の支援、復興期の活動のモデルとなるよう成果と課題を検証し、今後の支援に活かしていくことをめざします。

支援スタッフのミーティングも定期的に行っています

避難場所であるキャンプでのアウトリーチ活動

活動地域

インドネシアのチアンジュール県ゲクブロン郡で実施しました。ゲクブロン郡にあるスカラツ村では、ジャワ島西部地震（2022 年 11 月）によって、2,646 名が被災者し、うち 521 名は子ども、327 名は高齢者、1,296 名は女性、79 名は障害者が含まれていました。

ゲクブロン郡には、私たちの組織の恒久的なサービス拠点があります。大規模災害発生時には、このサービス拠点を軸に、急性期から復興期まで、被災者のコミュニティを包括的かつ徹底的に支援しています。

対象者

本プロジェクトの活動は、震災発生時に支援のニーズがあり、暴力等の被害を受けている人・世帯に対して実施しました。

事業の成果

私たちが関わった多くの被災者が、災害によって居住地域（あるいは避難先）で、さまざまな問題（人間関係、ご近所問題、環境不適合、孤立等）が発生していると話していました。また、災害によって引っ越しをしなければならない人も多く、愛する家族との別れや長年生活してきた場所を離れるストレス、自分がどこにも所属していない感じがする等、精神的な不調を訴えていました。そのため、今回の事業では家族や社会との関係性を再構築することに焦点を当てて活動しました。災害によって精神的なストレスを受けているのは大人だけではなく、子どもに対しても年齢ごとに効果的なアプローチを行いました。

プロジェクトを通じて、支援対象者からは、家族や社会との関係の再構築（家族、ご近所付き合い、親戚、友人等との関係改善）や、生活の立て直し等について改善されたという声が寄せられました。

左：損壊した家屋を見て心を痛める被災者は多いです
右：キャンプに避難している被災者を訪問、話を聞きます

実施内容

災害後の心理的・社会的支援プログラムは、2023 年 5 月 1 日から 2023 年 12 月 22 日まで、対象者別に実施しました。

大人を対象にしたプログラム

大人に対しては、生産的な活動を通じた支援を実施しました。災害発生後に被災者が避難しているシェルターやキャンプでは、余暇としてさまざまな活動を行っています。生産的な活動を行うことで、健康面と精神面との安定をめざします。

左：キャンプで支援活動をしている様子
右：裁縫をしながらコミュニケーションをとります

子どもを対象にしたプログラム

子どもに対しては、遊びを通じた支援を実施しました。子どもは、遊ぶことで、ストレスや不安などが軽減されます。絵を描く、踊る、伝統的なスポーツをする、塗り絵をする等の遊びを一緒に行います。また、年齢の高い青少年に対しては、農業活動を取り入れてグループ活動を行いました。

左：塗り絵をしています
右：グループで農業活動をしています

スタッフ、ボランティアへの訓練、研修

この事業に関わるスタッフとボランティアに対して、避難訓練と研修を行いました。災害によってトラウマを抱えた人への支援と、災害発生時にダメージをできる限り少なく避難すること等、有益なことを学びました。

今後の展望

支援した被災者からは、課題として「被災地に派遣された専門家の災害訓練や支援経験の不足」、「責任をもって動くべき機関の調整と協力関係の不足」、「地元の住民同士のトラブルへの対応が不十分」等の意見が出ており、改善していくことが必要と考えています。

将来に向けては、今回スタッフやボランティアが実施した活動が被災者の精神的な安定と社会的なつながりをつくることで、地域の力を伸ばしていくことをめざしています。

また、現在、ボランティアは対象者が決まってから活動に参加していますが、ボランティアは地域の事情に精通していることから、一次的介入（ニーズ把握と評価、照会とモニタリング、調整）や活動の導入段階から関与できれば、支援が必要な人にもっと広くアプローチできると考えています。リソース（人、金、時間）を適切に活用し、より効果的かつ効率的な方法で支援を展開していきたいです。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	331,388	
自己資金	47,500	
その他（寄付金）	9,500	BAZNAS 寄付
合　計	388,388	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
子どもたちのための心理社会的支援		
幼児向けの活動経費	47,500	活動に使う文具等購入費（100 名分）
小学生向けの活動経費	95,000	活動に使う文具等購入費（200 名分）
中高生向けの活動経費	33,250	活動に使う文具等購入費（70 名分）
女性／主婦のための心理社会的支援		
実施のための経費	142,500	活動に使用する裁縫道具等購入費（150 名分）
男性／若者（世帯）のための農業訓練		
実施のための経費	40,375	農業訓練実施パッケージ（25 名分）
トウモロコシの種購入	1,263	
スタッフ、ボランティアの避難訓練、研修実施		
講師（ファシリテーター）謝礼 心理社会的支援資料	28,500	ソーシャルワーカー 2 名、 専門ボランティア 2 名（各 5 日間）
合　計	388,388	

注）インドネシアルピア（IDR）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
　　換算レート：1 インドネシアルピア≒ 0.01164 円〔送金時 (2023 年 5 月 19 日) の為替レート〕

令和５（2023）年度修了生福祉活動助成事業
（アジア社会福祉従事者研修修了生助成）
実施要綱

2022年11月1日
社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

１．趣旨・目的

本事業は、アジア社会福祉従事者研修修了生（以下「修了生」）が行う社会福祉活動（事業）等への助成を通じて、アジアの社会福祉の発展に寄与することを目的とする。

２．助成対象及び助成条件

（１）助成対象

・本事業は修了生の活動組織が助成を活用して新しい事業活動を立ち上げたり、様々な福祉ニーズに対応したりすることに資するための助成事業である。団体の日常的な運営等に充てるものではなく、上記の目的に沿った特定の活動への助成であることに留意すること。新規事業だけでなく、すでに助成を受けた事業で、継続するものや関連するものでも可とする。ただし、同一団体または修了生の連続した申請は２年を上限とする。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、既存の事業実施や団体運営に支障が生じている場合、その課題の解決や状況の改善に資すると認められる助成申請についても対象とする。

（２）事業の実施者

原則として、以下の活動（事業）を助成対象とする。

①修了生所属団体が実施する社会福祉活動（事業）。

②修了生グループが協力して行う社会福祉活動（事業）。

（３）助成条件

以下のいずれの項目も満たしていること。

①活動（事業）の目的が明確で、具体的な成果が期待できるもの。

②活動（事業）の運営に関して、修了生が必ず関わっていること。

③修了生所属団体の代表者が認めたものであること。

④期限までに所定の様式により報告が行えること。

＊なお、2022年度に助成を受けた団体については、当該助成事業の事業報告書（事業が完了していない場合は中間報告書）が全社協に提出されていることを条件とする。

（4）助成対象者、助成事業実施団体の責務

○○修了生は、事業の実施者（担当者）として責任を負う。

○国際福祉協力センターへの連絡、申請書、事業報告書等の書類の提出は、修了生の仕事とする。国際福祉協力センターからの照会に対しては、可及的速やかに回答すること。

○所属団体代表者や施設長には、事業を適正に運営する責任が発生する。
事業の申請書（計画書）・報告書は、団体代表者・施設長が必ず確認し、サインをすること。サインのないものは、申請を認めない。

○助成金は、アジアの社会福祉の向上に心を寄せる日本国内の多くの支援者（個人や福祉団体等）からの拠金によるものである。修了生や所属団体は、それらの支持者の意思に誠実であることが求められる。そのため、助成金の適正な執行、種々の締切日に留意し、中でも支援者に対する事業の成果を適切に行うこと。

3．2023年度助成金総額

300万円程度を予定。ただし、コロナ禍に伴う課題解決に係る助成申請の状況によっては、総額を上回る額を助成することも検討する。

4．1件あたりの助成金額

原則日本円で30万円を上限とする。

5．活動（事業）実施期間

2023年4月から2024年3月までに実施される活動（事業）を原則とする。
次年度以降も継続して行われる事業や1年以上の長期間のプログラムも可とするが、その場合は、あらためて助成を申請し、審査により決定する。

6．申請者

申請者は母国で福祉活動に従事する修了生とする。

7．申請・申し込み（手順）

助成を希望する修了生は、別添の①申請書様式に必要事項を記入し、②修了生本人の活動状況がわかる写真を添付のうえ、全社協総務部国際福祉協力センターに提出する。

8．申請書類の締切

2023 年 1 月 6 日（金）

9．審査および結果通知

（1）申請案件については、助成金額も含め全社協「国際社会福祉基金委員会」で審査を行い決定する。申請者全てに助成されるわけではないことに留意すること。

（2）審査にあたっては、十分な成果が期待できる活動（事業）であることを重視する。

（3）助成の可否については、2023 年 3 月末までに、申請した修了生および修了生が所属する団体の代表者に通知する。なお、審査結果によっては、助成決定額が希望額を下回る可能性がある。

10．書類の提出

次の書類を全社協総務部国際福祉協力センターに提出すること。

（1）助成金を受領したとき　　：領収書

（2）助成金による事業の終了後：事業報告書

11．連絡先（問い合わせ、申請、書類提出）

社会福祉法人　全国社会福祉協議会　総務部 国際福祉協力センター
Japan National Council of Social Welfare, General Affairs Division,
International Center
4F Shin-Kasumigaseki Bldg., 3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
Tel: +81-3-3592-1390　Fax: +81-3-3581-7854　E-mail: z-kokusai@shakyo.or.jp

事業実施経過

■事業実施経過

令和４年７月	令和４年度 第１回国際社会福祉基金委員会にて 実施要綱を審議、決定
令和４年 11 月	実施要綱の発送
令和５年１月５日	助成申請の締め切り 申請：10 事業
令和５年２月	第２回国際社会福祉基金委員会にて申請の審査 承認：８件（→うち１件は助成辞退）不承認：２件
令和５年３月	審査結果の通知
令和５年５月	助成金の送金
令和５年 10 月	修了生から事業の概要を紹介した動画の提供
令和６年１月	修了生から事業報告書、決算書の提出

■アジア社会福祉従事者研修　修了生助成事業の実績データ

○事業開始：1997 年（平成９年）～

○助成先国別（1997 ～ 2023 年）

	助成回数（団体数）	金額（単位万円）
韓国	10 回（4 団体）	395 万円
台湾	9 回（5 団体）	360 万円
フィリピン	44 回（13 団体）	1,293 万円
タイ	63 回（16 団体）	1,829 万円
マレーシア	13 回（5 団体）	385 万円
スリランカ	29 回（6 団体）	794 万円
インドネシア	40 回（9 団体）	1,080 万円
バングラデシュ	4 回（1 団体）	150 万円
	212 回（59 団体）	計 6,286 万円

〇助成元組織（現在）：
公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、
公益財団法人全国老人クラブ連合会、国際社会福祉基金※
（過去の助成元）
社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金、安田火災ちきゅうくらぶ、霊友会、
全国保育士会、上溝保育園、アジア・フレンドシップ・ファンド（AFF）

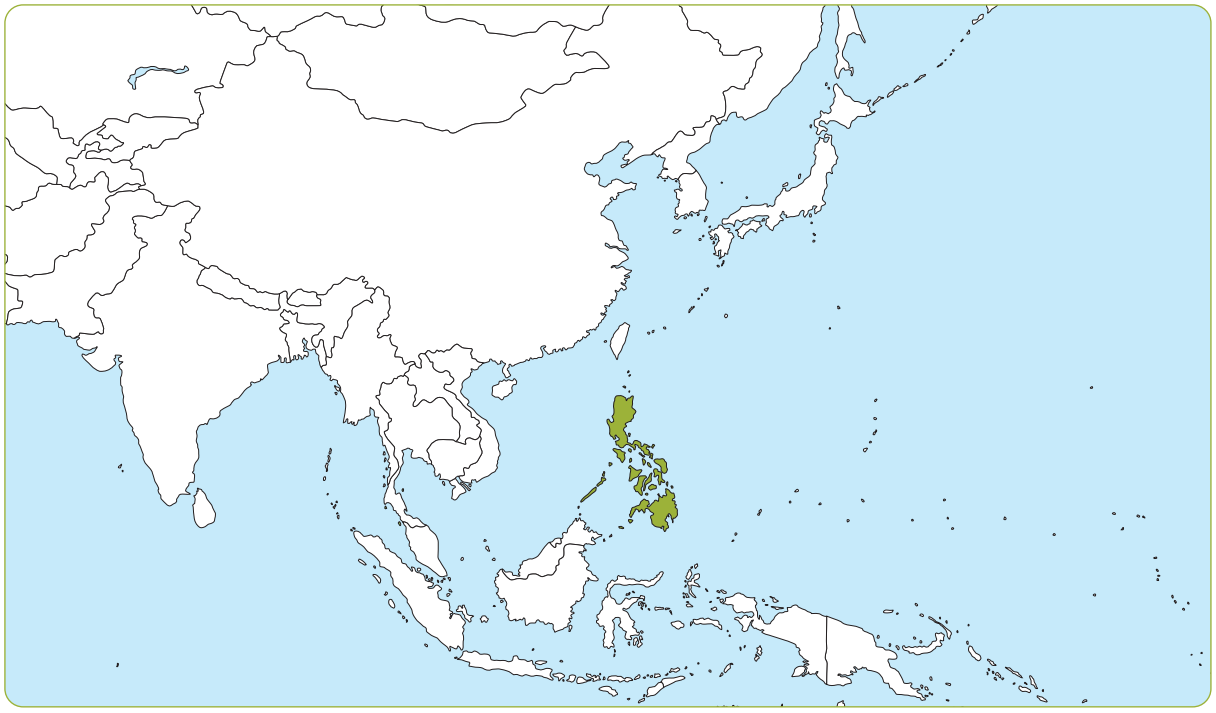
※国際社会福祉基金と国際交流・支援活動会員

全国社会福祉協議会の国際交流・支援活動の財源となる国際社会福祉基金は、全国の福祉関係者からの拠金をもとに1991年に創設されました。この基金により、アジア社会福祉従事者研修を通して各国の研修修了生や彼らの推薦・所属団体と「顔の見える」ネットワークを築き、助成事業やスタディツアー、アジア社会福祉セミナー、災害支援などへと活動を広げ、お互いの信頼関係を深めてきました。これらの交流・活動に対し、福祉関係者の皆さまには、2016年度から「国際交流・支援活動会員制度」にご協力をいただいております。皆さまのご支援・ご協力に感謝申しあげます。

令和5年度会員数		
	法人・組織会員	36法人
	賛助会員	2法人
	個人会員	29名
	育むプロジェクト支援会員	3名

The Philippines

フィリピン共和国　基本情報



面　積※1	約 30 万㎢　日本の約 8 割
人　口※1	1 億 1,388 万人（2021 年）
人口密度※1	380 人／㎢（2021 年）
主要民族※2	マレー系が主体。他に中国系、スペイン系及び少数民族がいる。
主要言語※2	国語はフィリピノ語 公用語はフィリピノ語、英語
主要宗教※2	カトリック 83%、その他キリスト教 10%、イスラム教 5%
政治体制※2	共和制
1人あたりの国民総所得※1	3,550 米ドル（2021 年）
通　貨※3 （1米ドル= 131.498 円換算）	1 米ドル= 54.478 フィリピンペソ（2022 年平均） 100 円≒ 38.461 フィリピンペソ レートは 2023/5/19　時点
平均寿命※1	男 62.2 歳、女 71.5 歳（2021 年）
65 歳以上人口割合※1	5.3%（2021 年）
合計特殊出生率※1	2.75（2021 年）

※1　二宮書店　データブック　オブ・ザ・ワールド　2024 年版　―世界各国要覧と最新統計
※2　外務省 HP　https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html
※3　統計局　世界の統計 2024　https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html

Thailand

タイ王国　基本情報

面　積※1	約 51.3 万㎢　日本の約 1.4 倍
人　口※1	7,160 万人（2021 年）
人口密度※1	140 人／㎢（2021 年）
主要民族※2	大多数がタイ族。その他　華人、マレー族等
主要言語※2	タイ語
主要宗教※2	仏教 94%、イスラム教 5%
政治体制※2	立憲君主制
1人あたりの国民総所得※1	7,090 米ドル（2021 年）
通　貨※3 （1米ドル= 131.498 円換算）	1 米ドル= 35.061 バーツ（2022 年平均） 100 円≒ 24.33 バーツ レートは 2023/5/19　時点
平均寿命※1	男 74.5 歳、女 83.0 歳（2021 年）
65 歳以上人口割合※1	14.5%（2021 年）
合計特殊出生率※1	1.33（2021 年）

※1　二宮書店　データブック　オブ・ザ・ワールド　2024 年版　―世界各国要覧と最新統計
※2　外務省 HP　https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html
※3　統計局　世界の統計 2024　https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html

Sri Lanka

スリランカ民主社会主義共和国　基本情報

面　積※1	約 6.6 万㎢（2022 年）　北海道の約 0.8 倍
人　口※1	2,177 万人（2021 年）
人口密度※1	332 人／㎢（2021 年）
主要民族※2	シンハラ人（74.9%）、タミル人（15.3%）、 スリランカ・ムーア人（9.3%）（一部地域を除く値）
主要言語※2	公用語（シンハラ語、タミル語）、連結語（英語）
主要宗教※2	仏教徒(70.1 %)、ヒンドゥ教徒(12.6 %)、イスラム教徒(9.7%)、キリスト教徒(7.6%)（一部地域を除く値）
政治体制※2	共和制
1人あたりの国民総所得※1	4,000 米ドル（2021 年）
通　貨※3 （1米ドル= 138.169 円換算）	1 米ドル= 198.76 スリランカルピー（2021 年平均） 100 円≒ 220.526 スリランカルピー レートは 2023/5/19　時点
平均寿命※1	男 73.1 歳、女 79.5 歳（2021 年）
65 歳以上人口割合※1	11.2%（2021 年）
合計特殊出生率※1	1.99（2021 年）

※1　二宮書店　データブック　オブ・ザ・ワールド　2024 年版　―世界各国要覧と最新統計
※2　外務省 HP　https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html
※3　統計局　世界の統計 2024　https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html

Indonesia

インドネシア共和国　基本情報

面　積※1	約 191 万㎢　日本の約 5 倍
人　口※1	2 億 7,375 万人（2021 年）
人口密度※1	143 人／㎢（2021 年）
主要民族※2	約 300（ジャワ人、スンダ人、マドゥーラ人等マレー系ほか）
主要言語※2	インドネシア語
主要宗教※2	イスラム教 86.69％、キリスト教 10.72％（プロテスタント 7.60％、カトリック 3.12％）、ヒンズー教 1.74％、仏教 0.77%、儒教 0.03%、その他 0.04%（2019 年、宗教省統計）
政治体制※2	大統領制、共和制
1人あたりの国民総所得※1	4,170 米ドル（2021 年）
通　貨※3 （1米ドル＝ 131.498 円換算）	1 米ドル＝ 14,849.85 ルピア（2022 年平均） 100 円≒ 10,747.64 ルピア レートは 2023/5/19　時点
平均寿命※1	男 65.5 歳、女 69.4 歳（2021 年）
65 歳以上人口割合※1	6.8%（2021 年）
合計特殊出生率※1	2.18（2021 年）

※1　二宮書店　データブック　オブ・ザ・ワールド　2024 年版　―世界各国要覧と最新統計
※2　外務省 HP　https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html
※3　統計局　世界の統計 2024　https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html

アジア社会福祉従事者研修　修了生福祉活動助成事業　2023 年度実施報告
2023 JNCSW Grant Program for the Ex-Trainees of Asian Social Welfare Workers' Training Program

2024 年 7 月

発行

社会福祉法人　全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会
〒 100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル
TEL：03-3592-1390　FAX：03-3581-7854

Japan National Council of Social Welfare
International Social Welfare Fund Committee
Shin-Kasumigaseki Building,
3-3-2　Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
TEL: 81-3-3592-1390　FAX:81-3-3581-7854
E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp

全社協福祉ビジョン2020推進事業

支え合う アジアの福祉ネットワーク